

授業科目 解剖生理学 I

【担当教員名】 川中 健太郎	対象学年	1	対象学科	健康
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

これからの栄養士は、摂取した食物がどのように体内で代謝されて利用されるのかについてよく理解し、その知見を栄養指導等に生かしていく能力が必要とされる。解剖生理学ⅠおよびⅡではこれらの能力の土台となる“身体の構造と機能についての基本的な知識”を学習する。解剖生理学Ⅰでは、特に、ヒトの動物的機能、つまり、ヒトが動くことができるしくみについて学習する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

- 1) “細胞”とその集合体である“組織”について理解する。
- 2) “骨”および“筋”の構造と機能を理解する。
- 3) “神経”の構造と機能を理解し、神経系によって身体の活動がどのように制御されているかについて理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	人体の構造	人体は何からできているか	講義 一部、ビデオを活用
2	細胞と組織	細胞の種類と基本構造。人体の各組織はどのような細胞から成り立っている	
3	骨格	骨の形状と構造	
4	骨格	人体各部における骨格	
5	骨格	人体各部における骨格	
6	骨格筋	骨格筋の構造	
7	骨格筋	筋の動くメカニズム	
8	骨格筋	人体各部における骨格筋	
9	神経	活動電位	
10	神経	中枢神経系	
11	神経	末梢神経系	
12	新駅	自律神経系	
13	感覚		
14	呼吸		

【使用図書】

<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
解剖生理学	高野康夫 編	化学同人	2004年 2800円

教科書
(必ず購入する書籍)

参考書

その他の資料

【評価方法】

期末試験と出席状況

【履修上の留意点】

高校時代に“化学” “生物”を履修していない学生、または、理解が不十分な学生は“化学入門”や“生物学入門”を受講して学力を補強しながら授業に臨むこと。